

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	星薬科大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ホシヤッカダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F113310103493
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	学外体験学習 I
	学部・研究科等名	薬学部創薬科学科
	担当教職員名・役職	(学外体験学習実施委員会) 山本弘・准教授(委員長)、穂山浩・教授、細江智夫・教授、加藤良規・教授、吉澤(渡邊)小百合・准教授、酒井寛泰・准教授、岩崎雄介・准教授、香川博隆・講師、若菜大悟・助教、大塚まき・助教、塚田智也・学生支援部課長、結城祥子・学生支援部係長、西脇翔・教務部係員
	受講者数実績年度	令和4年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	20
	受入企業等数	9
	受入企業等名	アサヌマコーポレーション(株)、(株)アベルザ、ウエルシア薬局(株)、木村情報技術(株)、スカイファーム(株)、東邦ホールディングス(株)、(株)ビックカメラ、(株)富士薬品、PST(株)
	産学協議会の整理上の類型	3.タイプ3(汎用的能力活用型インターンシップ)
	キャリア形成支援活動の分類	1.長期(概ね1か月以上)のキャリア形成支援活動 5.他県をまたぐ広域でのキャリア形成支援活動 7.高学年(大学3年次～4年次程度)又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動 9.大企業・グローバル企業でのキャリア形成支援活動 10.中小企業でのキャリア形成支援活動 12.その他
	上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)	ベンチャー企業でのキャリア形成支援活動
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	営業部門から製造部門まで幅広い業務を経験し、業界における様々な働き方を学ぶ研修と、特定のプロジェクトに参加し、企画立案や調査・分析等の実践を通じて一つの業務を深く学ぶ研修との大きく2種ある。いずれも現場経験を通して業界が抱える課題と向きあい、社会の一員として自分が果たすべき職能、役割及び責任の重要性の理解を促すとともに、社会人基礎力を通じて自己理解を深めるプログラムとなっている。また、後輩に対して体験談披露を行うことを通じて、自らの想定する将来のキャリアの中で学外研修(インターンシップ)を改めて定位しつつ、次世代育成の姿勢を涵養している。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	2.当該キャリア形成支援活動は、キャリア教育科目として実施している 4.当該キャリア形成支援活動は、必修科目として実施している 7.当該キャリア形成支援活動は、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部3年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 その他

項目	確認事項	届出内容
	2-5.上記回答内容に関する詳細	大学 9単位(3年次前期～4年次前期開講科目)
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	<p>1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている</p> <p>2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている</p> <p>3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている</p> <p>4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している</p>
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	<p>1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている</p> <p>2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている</p> <p>3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている</p>
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての常識、倫理観、社会人基礎力、社会人としてのマナー、ビジネス文書の書き方、企業理念・ビジョン、企業倫理とコンプライアンス、リーダーシップとコミュニケーションスキル、前年度受講学生による学外研修体験談、建学の理念と歴史、学外研修の心構え等に関する、講義及びグループワーク。 ・これまでに学んできた経済・経営系の素養を、企業実務に落とし込み総まとめを行うとともに、企業実務の現場で用いられるビジネス用語の理解を深めるため、企業経理、生産管理、品質管理、事業計画体験ワークショップ等に関する、講義及びグループワーク。 ・実習先及び関連業界の現状、特徴、課題点等についての情報収集及び理解に向けた講義及びグループワーク。 ・将来設計(社会で貢献したい目的)を措定し、そこに到達するために本インターンシップで到達したいと考える業務、社会人基礎力、人格形成に関する目標を設定する、グループワーク及びプレゼンテーション。なお、設定した目的や目標は事前に学外研修先(インターンシップ先)に送り、共有している。また、場合によっては学生と研修先が研修前に面談し、目標のすり合わせを行っている。 ・「社会人基礎力自己点検シート」に基づく社会人基礎力についての自己評価。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会人基礎力自己点検シート」に基づき、社会人基礎力に関する研修前後の自己評価結果を比較検証。 ・学生自身が研修内容を記録する「研修日誌」、「プロセス管理シート」及び、研修先担当者からのフィードバックを記録する「フィードバックシート」を基に研修における学びを整理。 ・各人が自身の研修の成果をプレゼンテーションし、学生間の意見交換を通じて学びを深める小括報告会を実施。 ・学科担当教員全員、他学年の学生及び研修先担当者を集め、自身の成果をプレゼンテーションすることで学びを深める総括報告会を実施している。なお、会の企画・運営のほとんどを学生の裁量に任せており、総括報告会そのものが、学外研修(インターンシップ)で得た成果の実践的なアウトプットとしても位置づけている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・講義担当者(学外体験学習実施委員)が、1ヶ月間の研修の中で少なくとも1回は全ての研修先企業を訪問し、学生及び研修先企業の担当者と面談を実施している。 ・学生が設定した目標の到達度について確認し、残りの期間でのアクションプランを考えさせている。また、研修先からプログラムに関する相談や質問を受けける機会としている。
	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい

項目	確認事項	届出内容
要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.キャリア形成支援活動による到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	・学生自身は、「社会人基礎力自己点検シート」を用いて研修前後に社会人基礎力を自己評価し、客観的に研修参加前後の違いを把握している。 ・研修先担当者は、研修学生の社会人基礎力や研修態度を評価する「フィードバックシート」を用いて、実習中の学生を客観的に評価している。 ・社会人基礎力については、ルーブリックによる評価基準を設定し、学生、研修先、教職員で共有している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	1ヶ月間
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
5-3.上記回答内容に関する詳細	全ての受入企業において、連続した1ヶ月間(毎年10月に実施)の研修を行っている	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、就業体験実施期間中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	・受入企業には事前学習において学生に向けたガイダンスを実施してもらい、研修概要を提出してもらい、研修内容及び学生に求めることなどを企業及び大学、学生間で共有している。 ・研修中においては、学生及び研修先担当者双方が研修内容を振り返る「プロセス管理シート」を用いて目標の到達度や修正を行う等、受入企業担当者も学生の評価を実施している。 ・講義担当者による定期的な研修先企業の訪問(10月及び2月)を行い、研修プログラムに対する意見交換を行なう等、大学担当者と企業担当者間で連携を取りつつPDCAサイクルをまわすことにより、実践的かつ効果的な実習の実施を目指している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://syllabus.hoshi.ac.jp/web/preview.php?no_id=230306&nendo=2023&t_mode=pc&radd=977
問い合わせ先	大学等名	星薬科大学
	担当部署名	学生支援部
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	結城 祥子
	電話番号	03-5498-5851
	メールアドレス	shushoku@hoshi.ac.jp